卯歳の新春京都勝ち神参拝　レポート

　平成２３年歳在辛卯の新春京都参拝の企画は、１月８日～１０日に行われました。ご参列の皆様には一年の一番初めの縁起の日に京都を訪れる幸運に恵まれましたこと、改めましてお祝い申し上げます。
　そして多くの方々のご支援により無事に参拝ができましたこと厚く御礼申し上げます。
　今年の新春京都勝ち神参拝のまとめとして、本レポートを作成致しました。ご一読頂き、この奇跡的な時空に身を置かれたことを改めて実感頂ければ幸いです。

はじめの、はじめの一歩

今年の新春企画は、１月７日から始まりました。毎年奇跡を生み出している新春参拝ですが、今年もその奇跡の元になった出来事からご紹介いたします。

新春参拝の何といってもメインは「都七福神めぐり」です。七難即滅・七福即生のご利益を頂ける都七福神めぐりは今年で４回目です。毎年その年の年神様の力を頂くことを大切に、最高の縁起付けをしております。
そして、今年は１月９日。この日は「甲子の日」・「甲子祭」大黒天を祀るお寺では、ご祈祷があがり、大黒天と縁を結ぶ日です。まずこの日に都七福神めぐりができる必然を感じなければなりません。そして、大黒天様の力を頂くには、「初甲子祭」の「初ご祈祷」に参列する必要があります。さらに・・・都七福神めぐりは当然、大黒天から始めなければ意味がありません。さらにさらに・・・七福神めぐりに必要な「色紙」は大黒天の色紙が必要です。この色紙には、大黒天の秘密が記される扁額の絵が描かれています。
このようなことを１月９日の都七福神めぐりにどうしても実現したい。もし実現できれば、今年参列された方々に大黒天の大きな力が得られるに違いないのです。しかし、その見込みはほとんど立っていませんでした。
そこで、ダメもとで１月７日松ヶ崎大黒天に足を運んでみました。

一歩足を踏み入れると、別世界が広がっていました。今までに何度と訪れた松ヶ崎の大黒

さんですが、景色が全く違います。桜が咲いています。そしてひっそりと静まり返っています。さらに、階段を上って行けば、「なで大黒」が雪の帽子をかぶってお出迎えです。

そうなのです。桜と思ったら、桜の木に雪が積もって「雪桜」になっていたのです。この瞬間にしか出会えない景色なのでしょう。風が吹く度に桜吹雪のように「雪桜の吹雪」が舞います。夢中でシャッターを切り、カメラに収めました。
感動の瞬間です。そして、社務所に行き、都七福神まいりの事を伝えたら、私が願っていたことが全て叶いました。あまりに間がよいので、今年の新春京都参拝は間違いなく大成功すると確信したのです。
　この１月７日の松ヶ崎の大黒さんの画像はホームページに掲載しております。特に雪の帽子をかぶった「なで大黒」は必見です。

はじめの一歩

１月７日は翌日からの伏見稲荷正式参拝、９日の都七福神参りの大福招来のために、大きな一歩を踏み出した日です。
京都のあるお寺にて、この３日間の企画の成功のために、祈願を致しました。雪がまだ少し残る境内、寒さで手足が凍えそうになる中で、写経をし奉納致しました。
墨をすり、心を落ち着けて筆をとり、一心に般若心経を写します。誰もいない拝殿の中には、愛染明王の力が伝わってくるようです。そして、写経を終えた瞬間、何か心の中に凄い達成感が湧き上がってきました。この日の朝の松ヶ崎の大黒さんの景色がまた思い出されてきます。なんとも絶妙な間です。大和古流当主友常先生からこの場所で、初めて伏見稲荷参拝の重要な「三鈷の松」を拝見し、そのお話を伺いました。
そして、８日の伏見稲荷参拝で持参される弓の作り手・御弓師は、伊勢神宮の遷宮に奉納される弓を作っている方であること、そしてこの日受取った弓はその中で作られた本年最初の弓であること。そしてなにより、この弓が、この日に間にあったことが奇跡なのです。
その奇跡の弓は、まだ一度も引かれないまま、伏見稲荷の稲荷山に私たち一行と昇ることになるとは、想像を絶することです。

この日の夜は、９日のたん熊北店の新年会に登場する予定になっている祇園のお茶屋・一力亭と芸舞妓に挨拶を入れ、いよいよ９日新年会の準備は万端になりました。

伏見稲荷正式参拝　物語

１月８日は、当会では初めて伏見稲荷大社の正式参拝が実現した日です。奇跡の弓を受け取り、大和古流家・次男満利殿をお迎えし、伏見稲荷大社に向かいました。

今日の参列者が続々と集まります。そして、この時先斗町の芸舞妓、「市光さん」「朋佳さん」今や先斗町一番舞妓の「光菜さん」が素敵な着物姿で登場頂きました。
今回の伏見稲荷正式参拝には欠かせない３名の芸舞妓さんです。このあとお山で大変重要な儀式が行われようとは、私も、芸舞妓も知らないことです。

伏見稲荷正式参拝の前にまず私たち一行が通されたのは、１２月２４日に竣工したばかりの新しい社務所の一室です。金屏風に、正月の花が活けられ、特別にお迎え頂いていることを実感し、感動致しました。一行はそのあと重要文化財の茶室をはじめ、普通では見ることのできない軸や書まで拝見することになりました。これだけのおもてなしを受けるのは、特別中の特別なことです。今回の正式参拝の格の違いを感じることができました。

そして、いよいよ拝殿にて祝詞が上がり、お神楽の舞台に上がることになりました。明らかに一般の参拝客とは違う破格な待遇です。
昇殿をして、お神楽の生演奏が始まると、幻想的な雰囲気に包まれたのがわかります。琴の音色、笛の音色が心に響いてきます。そして、鈴が頭上でならされた時、伏見稲荷の大神様に最も近い場所にいることを実感できました。
感動と感激で涙が出そうになるくらい、ありがたい気持ちになりました。参列者は一同に今年の大躍進を祈り、その思いが通じたことを実感できたことでしょう。

そのあと、お山を昇ることになります。社務所で「破魔矢」をひとりづつ手に入れ、絵馬に今年の目標を書きこみます。そして、一同お山に昇ります。
先斗町の芸舞妓は着物でしたが、この時はじめて一緒にお山することになりました。主催者である私も今からどんなことが始まるのかは全く想像できませんでした。大和古流当主友常先生と次男満利殿は弓を携えてお山します。お二人とも黒紋付姿です。この日が如何に重要であるのか、そしてお山で行われることが如何に破格であるのかを感じることができます。私もこのような姿でお山することを想像できませんでしたので、体が震える思いがしました。とにかく、何もかもが全く初めてのことです。

熊鷹神社に到着し、ある場所で儀式が行われました。三鈷の松、稲穂、飾り餅が供えられ、弓の儀式が次男満利殿の手によって行われます。参列者は一人一人破魔矢に力が込められました。凄い力です。「睨み」の儀式の威力が伝わってきました。
先斗町の芸舞妓が巫女の役になり、破魔矢が手渡されます。今年これから降りかかってくる「難」をすべて打ち破るほどの勢いです。感動で涙を流す方もいたほど、言葉では言い表せない世界に身を置くことになりました。

この正式参拝を終えた後、祇園に向かい本日の新年会が行われました。京都でも指折りの老舗のフランス料理店がこの日の会場です。まさに絶品。これぞ一流の料理ばかりが並びました。特にこの店自慢の「エスカルゴ」はただただ驚き、今まで味わったことのない日本のフランス料理の神髄でした。
この席には、伏見稲荷正式参拝にご一緒した、先斗町の芸舞妓が正装で私たちのおもてなしをしてくれました。頭には正月だけ特別に付ける「稲穂」が実っています。この稲穂は直接、芸舞妓から受取り、千社札に包んで「お守り」になりました。素晴らしい料理と、華やかな芸舞妓のおもてなしで、どんどん時間が過ぎ去っていきます。まさに勝ち神舞い降りています。

ところで、この宴の始まる前、大和古流当主友常貴仁先生の新春京都特別講演がありました。卯歳の新春にふさわしい、奥深い日本文化の内容を伝えられた破格な講演会になりました。そしてこの日は特別に、次男満利殿の講演も行われました。さすがに寅歳を勝ち上がった歳男です。昨年政府の特別研究員に任命された快挙の紹介とともに、本日の伏見稲荷正式参拝の価値と意味を実にわかりやすくお話頂きました。熊鷹神社での大役を務められ、私たちに大きな勢いを頂くことになった次男殿に感謝、感謝です。

今回の新年会は今までの雰囲気と全く違います。何より違うのは、友常先生へのおねだり！です。祇園で購入してきた白扇を手に、「一筆宜しくお願いします」とずうずうしくおねだりです。３度頼み続ける参加者に、食事もほどほどに白扇に書き続けて頂きました。
私も見たこともないような素晴らしい縁起の絵の完成です。富士、茄子、鷹・・・高すぎます！一生の宝物を手にした皆さんは大喜びでした。友常先生には無理に無理を重ねているのに、続々とお願いが続きます。私も初めてみる大盤振る舞いです。正直びっくりしましたが、出来上がった扇や色紙は、一生に一度の破格な伏見稲荷正式参拝の最後を飾るにふさわしい忘れられない出来事になりました。お陰で、私自身の扇に書いて頂く時間がなく、せかっく用意した扇は真っ白でした・・・。

（写真・・・参加者のわがままに書き続ける友常先生）

さて、もの凄い早さで時間が過ぎ、宴が終わりました。
二次会の会場は先斗町です。
ここで、本年初めての「かにかくに」歌会が自然の流れの中で始まりました。
昨年お世話になった市福さんは、芸妓姿で登場です。
そこで、「かにかくに　やはりとなりは　福の神」と虎子として一句・・・市福さんは辰年ですので、今年の卯歳と併せて「うだつ」の上がる男になりたい・・・そんな思いで先斗町にこの日最後の種を残してきました。

甲子の日･都七福神参りは始まりが勝負！

１月９日は新春京都参拝のメインである「都七福神参り」です。この日は甲子の日、大黒天の縁日、今年初めてのご祈祷が上がる日です。何としても一番乗りで松ヶ崎大黒天に到着したい。集合時間前にほとんどの方が集合されたので、皆さんのお陰で時間どおりに出発できました。毎年、何が起こるか分からない都七福神参りです。実はこの後、とんでもない奇跡とともに、都七福神が満願できるとは思ってみませんでした。この日は一日中、全ての事が「間」にあって、一瞬の無駄もなかったのですから。

松ヶ崎大黒天での初ご祈祷に間にあった私たちは、参拝の後、次の赤山禅院に向かいました。友常先生はここ松ヶ崎で、この日の大黒天様の力を全て頂き、その力を込めるお札を作るために残りました。この力あるお札は、後にたん熊北店の新年会にて、参列者に配られました。松ヶ崎大黒天の住職が「吸い込まれるようだった」と言われたように、一番祈祷の力はすごく、友常先生の力で、お札にその力が込められるという、これも破格な儀式が行われたのです。

さて、今回の七福神参りにも、参加者の皆さんはひとつひとつ身を運び、今年の福をこの身に修めることができました。やはり身を運んでこそわかる世界です。何か、めぐっているうちに自分自身の心の中にはっきりと今年の目標が見えてきていることを感じた方も多くいました。そして、来年もここに来よう！そのために大躍進を叶えなければなりません。
何とも心地よいプレッシャーの中で、無事終了することができました。
昨年と今年の違いは、大黒天から始まっていることです。七福神の色紙は、えびす神社の色紙と大黒天の色紙の２種類を用意しました。甲子の日ですから、この大黒天の扁額の絵

の描かれた色紙を手に入れることが当初からの目標でしたので、それを手に入れた満足感がありました。そして、毎年のえびす神社の色紙にも今年は大黒天の一番祈祷の力が込められています。

全てが終了したと思った東寺で、思わぬことに気が付きました。大黒天の色紙にはえびす神社のご朱印がない・・・のです。毎年えびす神社の色紙を頂いているので、えびす神社のご朱印は初めから書かれているのです。ですから、東寺の毘沙門天で最後だったのです。

大黒天の色紙にはえびす神社のご朱印がない。なんとなくわかっていたのですが、なぜかそれほど重要視していなかったのです。これはまずい・・・と思い始めたのは、全員で記念写真を撮った時でした。
七福神のご朱印の締め切りは４時です。東寺を出る時が４時でしたので、もしかしたらえびす神社は無理かも、と思っていました。しかも、この日は十日えびすの宵宮ですから、大賑わいは必至です。
四条に到着後、仲間をえびす神社に走らせ、何とか宮司様に交渉し、ご朱印をすべて頂くことができました。頼もしい仲間です。大手柄でした。これで、七福神参りは満願できました。

新春の宴（うたげ）

今年もたん熊北店にて、素晴らしいお正月の京料理を頂くことができました。友常先生の大黒天での破格な儀式の様子を伺い、そしてそこで生まれたお札が一人一人に手渡されます。そのお札を七福神の色紙に貼れば、甲子の大黒天の力を全て頂くことになります。勝ち神・七福神色紙の完成です。この宴にて毎年七福神の色紙が完成されます。祇園の芸舞妓も登場し、千社札も貼られます。
今年も地方の「君鶴さん」芸舞妓は「弥須葉さん」「小扇さん」です。弥須葉さんは昨年は舞妓でしたが、今年は立派な芸妓姿で登場です。

この新年会は、君鶴さんの三味線の音色で京舞が舞われます。正月の縁起の良い舞を拝見できました。今年も縁起がいい・・・。
小扇さんの舞は「七福神」です。本日の七福神めぐりを思い出すように、七福即生しました。

えびす三郎　深夜に目覚める･･･

１０日は赤口。今年の十日えびすは「貧乏えびす」。しかし・・・この時だけはやはり違っていました。事前に「深夜の商売繁盛特別参拝」として案内し、二次会の後、えびす神社に向かいました。昨年、「本当の十日えびす」を体験した私たちは、もともとこの日しかないと思っていました。そして、やはりこの時にえびす神社は全く違う雰囲気でした。この特別参拝を目がけて深夜に集まった方も、何かを感じたようです。
何かを感じるのか、何も感じないのか・・・この差は大きいです。
えびす三郎が目覚めたのには訳があります。その理由を知っている私たち一行にだけえびす三郎は振り向き、願いを聞いてくれるのです。
何も分からず一緒に並んでいるだけの人には何も分からない世界です。その瞬間明らかにえびす三郎の力はこちらを向いています。友常先生の案内のもと、一緒にいるだけでえびすの神様は私たちのそばにいるのです。少なくともこの時私は何か感じるものがありました。

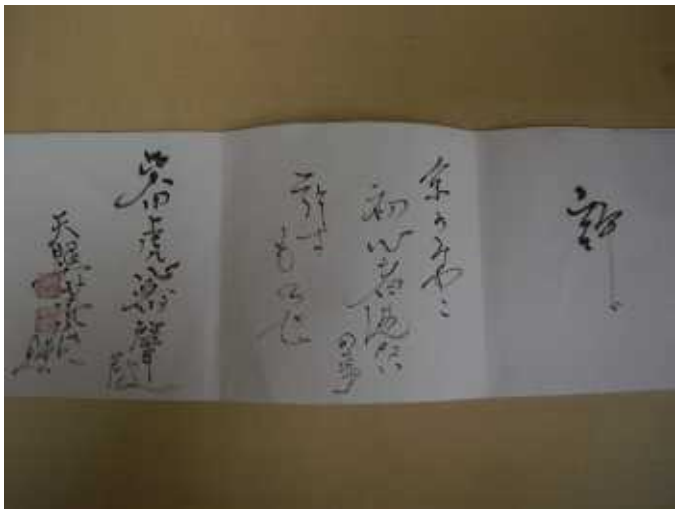
衝撃の月読神社

最終日、１０日は松尾大社に集合です。８日東の伏見稲荷を参拝し、本日は桂川を渡り、西に鎮まる月読神社を参拝しました。参列者の皆さんは、松尾大社にて参拝の後、月読神社に向かいました。
実は奇跡は合流する前に起こっていました。詳しくは言えない世界ですが、私はまさか最後の最後にこんな感動的な宝物を頂けるとは夢にも思っていませんでした。
涙が止まらず流れてくる、感動的な出来事です。月読神社は私にとって一生忘れることのできない場所になりました。
突然降り出した雪はキラキラと光り輝いていました。今までに見たこともない雪の美しさです。そして、名曲がどこからともなく聞こえてくる・・・昔子供のころよく聞いた歌ですが、こんな名曲だとは思わなかった。まさに今の心境、これから始まる一年を象徴する歌です。「枯れ木残らず花が咲く」。７日松ヶ崎大黒天でみた、雪桜の花はやはり何かを暗示していたのでしょう。今年も力一杯やり抜こう！強い決意の元、最後の参拝の場所に集まる参列者と合流したのです。

そして、全員で向かった月読神社。勝ち神の力で満ち溢れています。全員の今年の決意を表すにふさわしい場所でした。やはり、今年卯歳の神様は月読様でした。
伏見稲荷正式参拝、大黒天の甲子祭祈祷、都七福神参り、十日えびす参拝、月読神社参拝と３日間の新春京都参拝は、日本の文化、歴史、伝統を肌で感じ、その力を身に宿す素晴らしい機会でした。１２年に一度しかめぐってこない卯歳です。この一年は二度と訪れな

い一生に一度の時間。瞬間を精一杯生き抜くことを新春の京都は教えてくれたと思います。
当たり前のように、月は東から昇る。「玉兎　東昇」という言葉を友常先生から頂きました。
当たり前を「奇跡」と感じ、意思を持ってこの限りない人生を生き抜きたい・・・
来年、辰年の新春京都は何を感じさせてくれるのだろうかと楽しみです。そして、今年の大躍進を実現し、是非多くの皆さんと胸を張って上洛したいと強く願っています。

実は、たん熊北店での新年会の折り、大和古流当主友常貴仁先生から、私は、免許皆伝を頂きました。「初心者への京都案内を許可する」というものです。初伝の許可を頂いたのです。



これまで学んできた京都参拝の素晴らしさを、一人でも多くの心ある日本人に伝えていきたいと思っています。日本の文化は私たち日本人のものであり、日本人にしかその心根を守ることはできません。本物の文化伝統に身を置き、日本の素晴らしさを感じて頂けるよう精一杯ご案内をする決意です。今回の新春京都参拝の訪れた神社仏閣を初め、京都案内の初伝を伝える企画を準備致します。本年も宜しくお願い致します。

今回の京都参拝の画像は、ホームページ　京都文化サロン http://yamato.shibata8848.com/ に掲載します。合わせてご覧頂きますようご案内致します。

平成二十三年歳在辛卯睦月二十七日　大安吉日

【企画・作成】
大和しうるわし東海本部　京都文化サロン
代表　　一歩株式会社　柴田虎心斎肇